



夕刊 (刊) 日一十月三年四和昭 部二五 頁一四〇 冊一第 刊

黃野に轟く砲の響き

石城聯合青訓の演習

平町を中心として四方約二里の戦域で攻防の精銳相交る二日間

教育勸励演習四十年、青田及び神谷村附近の對立訓令發布五周年、青年團で五日午後六時演習の火蓋に對する令旨下賜十周年を切る斥候の衝突、敵狀偵察に對して來月五日から六日間に兩軍の衝を交へて部隊にかけ平町を中心として約二里の四方を

行動

なる夜北軍の襲撃行あるもの、如く聯合會の合同演習は愈々目であるが功を奏するか否か既に迫り各訓練所は今その或は睨み合つて徹宵するかの演習に鋭を磨いてゐる青訓形のまゝに午後九時頃の振興統一と大集團的訓練を目的とする右編制部隊は

六百名

の演習で當日は各前夜の陣營を張つて南軍の攻撃を開始され北軍のは特に若松廿九聯隊から機警隊を突破して前進する同關銃隊の應援あり統監とし軍の飯野部隊と内郷部隊はて小柳本縣知事並に川久保八幡小路

警中警

に集結し西方から一舉に北軍の主陣營跡を目標に攻撃すると同時に向鎌田に對立せる南軍神谷部隊もまた鐵北の夏井川右岸に進出ら月見町の南端及び鎌田橋して愛谷江の附近に亘り攻撃隊の南軍は沼田騎兵少佐を

主隊長

として内郷村防軍二の丸の陣地を攻め御旗から谷川瀬、向ふ鎌本陣を突かんとする攻鋭真若手縣伊藤郡真城村の秋澤

生れ當時住所不定無職佐藤屋の店員を平署前に呼寄せ新吾(三)は先頃平町四丁目た處を早くも署員に發覺し鶴屋洋品店から電話呼出で猪狩、瀬谷二刑事に逮捕さ商品切手を注文し釣銭詐欺れたが取調への結果廿五日の成功に味を占め廿八日午前中野吳服店からも釣銭詐欺後八時頃同様手段で前記鶴屋を働いた旨自白した。

失業者に恵まれた

ボタ山が其日の糧

緩附近の拾ひ炭で一日の働き

石城郡内郷村から湯本町に於ける失業者は三井炭礦の休山後一層の増加で解雇手當幾何でもなかつた前記三井の失業者達は漸く懐ろに寂しさを訴へ

生活

の樞みに八苦の智慧を絞つた揚句磐城炭礦が往年無價値なものとして捨てた緩附近のボタ山に混る石炭拾ひに目をつけ日頃所記の失業者が毎日八九十名ツ、

交通事故

平、湯本間の運轉制限

平町湯本間の乗合自動車は五名の營業者で約卅名の疾走交差が交通事故を起し勝たため縣保安課長、平署長の出會で左記事項を協定し事故防止を圖る事になつた

小賣商

には飛んだ炭難で右の拾ひ炭の安賣から甚大なる打撃をうけてこぼしてゐる。

出生と死亡

△出生 平町三丁目一住藤松三女と娘九月二十六日午後七時
△死亡 平町古鍛冶町四志賀た

柔次郎 長谷川次郎 野魯平△勿來町本城奥一
小野春之助 小野堯 岩次 浮須豊二 有吉佐平
松幸藏 熊澤清壽 鯨岡 羽山八郎 金成大五郎
松田實數比佐榮一 横山太一 根本福太郎
比佐賢司 江尻タツ 箱 根本カネ 根本庸次
崎爲次郎 飯淵丹治 千 金彌 赤津庄兵衛 小松
葉マナ 大内一美 大平 喜代治 若松忠兵衛 渡 修一 安島久 小野長司
邊祐助 渡邊渡 金子庄 印東イソ 大石辰次郎 金
兵工 武藤正雄 九頭見 渡邊トシ 若杉興吉 金
清市 佐藤徳兵衛 佐分 田定好 田口佐平 松本
利長清 木村重五郎 白 竹三郎 小松春次 小林
石義雄 比佐倉之助 久 松元次郎 秋元富重 小
野徳松 鈴木彦一 栗原 島松太郎 赤津常重 赤
森之助 鈴木良吉△磐崎 津島平 佐藤兵太郎 坂
村磯部雄三 堤誠三 向 本キク 篠田庄之助 鈴
四女千代子九月二十五日 美安次 小野馬次 小林
午後三時 田文人 坂田大作 白石 美啓 小野美定 赤津
平町宇新川町三三番藤六 之取三男正吉八月二十七 星友太郎 金成通 鷲休
日午前六時 大平ひさ 御代武兵衛 三 鷲休治 正木信男
△死亡 平町宇南町三三 御代徳次△田人村油座菊 高木武一郎 根本末二郎
宗太郎四男古川長光一ツ 次郎 逸見萬吉 池座四 山田村小野末吉 久保
九月二十八日午後九時 方吉 緑川平内△川部村 木榮作 秋山藤之助 安
芳賀嘉右工門 榎田作太 島重三郎 下山田嘉一 片
△湯本町飯島藤吉 岩田 郎 岡部茂 兒玉萬平 岡章 長瀬米次 成清未
安島龜吉 佐藤孝吉 小 吉 前田清美 古川傳一

所得委員 (四) の有権者 (四) 農村に奨励する 畜保とは一体 組合員 権利義務 保険料 組合に於ては...

農村に奨励する 畜保とは一体 組合員 権利義務 保険料 組合に於ては...

安島馬之助 安島利景 鷹清吉 坂本龜男 坂本 太郎 坂本龜一 坂本龜 誠一 馬上守一 五十嵐 久米八 小川藤太郎 六 谷泰次郎 渡邊重三郎 香取吉藏 成瀬巴三 際作平 山口近之助 小 宮山皆吉 佐藤松之助 酒井美良 鷲賀次 小宮 太 下山田武助 清水 賢吾 平澤ウラ 下山田 武光 松本好富 大浦孝 彦 瀧秀夫△渡邊若松 一也△泉村△遠野豊次郎 二男雄 長瀬主水△△ 濱町飯塚第一 小野務 平 永山ジユン 草野貞 太郎 郡司二郎 樺木篤 夫 赤塚榮助 赤塚ヒナ 齊藤定次郎 木田熊太郎 江尻基太郎 江尻子之太 郎 西原キヤ 堀越壽輔 小野定治 小野朝吉 小野豊治 大津キク 金 成寅之助 高木安吉 田 中權次郎 立花新次郎 柳内芳之助 山野進彦 安島民造 佐藤マサ 志 賀豊平 比佐健藏 比佐 守一(以上合計六七〇) 回

安島馬之助 安島利景 鷹清吉 坂本龜男 坂本 太郎 坂本龜一 坂本龜 誠一 馬上守一 五十嵐 久米八 小川藤太郎 六 谷泰次郎 渡邊重三郎 香取吉藏 成瀬巴三 際作平 山口近之助 小 宮山皆吉 佐藤松之助 酒井美良 鷲賀次 小宮 太 下山田武助 清水 賢吾 平澤ウラ 下山田 武光 松本好富 大浦孝 彦 瀧秀夫△渡邊若松 一也△泉村△遠野豊次郎 二男雄 長瀬主水△△ 濱町飯塚第一 小野務 平 永山ジユン 草野貞 太郎 郡司二郎 樺木篤 夫 赤塚榮助 赤塚ヒナ 齊藤定次郎 木田熊太郎 江尻基太郎 江尻子之太 郎 西原キヤ 堀越壽輔 小野定治 小野朝吉 小野豊治 大津キク 金 成寅之助 高木安吉 田 中權次郎 立花新次郎 柳内芳之助 山野進彦 安島民造 佐藤マサ 志 賀豊平 比佐健藏 比佐 守一(以上合計六七〇) 回

安島馬之助 安島利景 鷹清吉 坂本龜男 坂本 太郎 坂本龜一 坂本龜 誠一 馬上守一 五十嵐 久米八 小川藤太郎 六 谷泰次郎 渡邊重三郎 香取吉藏 成瀬巴三 際作平 山口近之助 小 宮山皆吉 佐藤松之助 酒井美良 鷲賀次 小宮 太 下山田武助 清水 賢吾 平澤ウラ 下山田 武光 松本好富 大浦孝 彦 瀧秀夫△渡邊若松 一也△泉村△遠野豊次郎 二男雄 長瀬主水△△ 濱町飯塚第一 小野務 平 永山ジユン 草野貞 太郎 郡司二郎 樺木篤 夫 赤塚榮助 赤塚ヒナ 齊藤定次郎 木田熊太郎 江尻基太郎 江尻子之太 郎 西原キヤ 堀越壽輔 小野定治 小野朝吉 小野豊治 大津キク 金 成寅之助 高木安吉 田 中權次郎 立花新次郎 柳内芳之助 山野進彦 安島民造 佐藤マサ 志 賀豊平 比佐健藏 比佐 守一(以上合計六七〇) 回

改革概論 (151)

大内 民 憲

参考資料

昨年二月歸郷した時に同君の老いたる父が、私を訪ねて来ての物語りに一潔が生前、先生のお世話になつたことは、死ぬまでお禮を申して居りました、それから先生が米國から送つて下さつた書物は、死ぬまで読んで居つて、どうしても先生の仰せの通り、立派な人間となつて、家を興し、國家の爲にもお役に立つのだと云つて居りました、潔の亡き後は其弟が、又其本を讀み今ではそれを一家の寶物として居ります、之はまことに輕少でありますが生がお歸りになつたらば二十年近くも心にかけて居つたお禮の印であります私の家もお蔭様で家も建て替へ生活にもさして差支なくなりました云々と金一封を出してさめくと泣くのであります、其時に私は在來中に、同君に宛て、「君は級中の秀才であつたのだから一家の爲に山間に朽ち果つる運命にあることは同情に堪へぬ、然し決して悲觀するに及ばぬ、何も世の中は學校にはいつて學問するばかりが能でない、かねく學校で教へて居つた二宮先生を見よ、赤貧の農家に生れ、しかもあつた大事業をやつたではないか、君も今後は奮勵努力、明治

の二宮尊徳たる決心をせよ、ことに二宮尊徳言行録を贈呈する云々と云ふ様な意味の手紙、トラントクの底にのつた一冊の古本をそへておくつたのであつたことを思ひ出したのであります。

破格の勉強で 歡迎される 静岡本場 大角園 約 小笠原茶 半谷 商店 平大町若松病院隣

客席良の音車様客街

山澤荷人物冬秋

店服吳閑伊

スペイン G.H.N 元 詰 甘味葡萄酒 ゴルフポートワイン ¥ 1.10 御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です (電話) 西村屋薬舗 (三番)

和洋 高級 質之良 價之低 西村屋 薬舗 平大町

鶴印 特製 中製 大鶴屋 舖子 平大町

入應院 藤沼 院醫 平町 電話七〇五番

市原 院醫 平町 淋病 梅毒 小兒科 外科

入院應需 自炊の便あり 明雲堂眼科醫院 平大町 電話六六九番

味噌醬油 正宗 山崎會社 鐘詰 平大町 電話二七番

外科、小兒科 平町 電話五二三番 高久病院 院長醫學士高久 忠

秋とサロンの 気朗かに 美味芳醇の 黒ビールを召せ 田町電三五二番

諸毒下しの大妙藥 安流丸 持約山野 電話三五二番

安價に 迅速に 遠藤活版所 電話七四三番

ドンナ御帽子を お褒めになりますか 秋から冬へ 中折、鳥打、小供帽 断然ウルトラモダインの眼もさめるような美しい品々が豊富に取揃えました 店 店 店 電話三五三番